

仙台PS操業差止訴訟・意見陳述書

2020年8月26日

原告 長谷川 公一

差止裁判は最後の手段

124名の原告を代表して、最終意見陳述を行わせていただきます。私は、35年半にわたって、この3月末日まで東北大学で主に環境社会学を研究・教育してまいりました。大学院生時代に名古屋新幹線公害訴訟や大阪国際空港公害訴訟を研究。以来、公害・環境訴訟の社会的意義に着目してまいりました。2009年度から、文部科学省の科学研究費を得て、16ヶ国以上が参加する気候変動政策の政策形成過程に関する国際比較研究の日本チームの代表でもあります。仙台に拠点をおく環境NGO、公益財団法人みやぎ・環境とくらしネットワーク（MELON）の理事長を2007年から務めております。環境省の外郭団体、全国地球温暖化防止活動推進センター（JCCCA）のセンター長を、2010年から昨年6月まで9年間務めました。

この仙台パワーステーションの問題には、公害問題・気候変動問題の研究者として、また津波被災地の一刻も早い地域再生を願う観点から、2016年8月よりかかわっております。2016年10月の発足時から「仙台港の石炭火力発電所建設問題を考える会」の代表を務め、原告団結成時から本差止訴訟の原告団長を務めております。

被告仙台パワーステーション株式会社の取締役社長砥山浩司氏は、2月17日の本人尋問において、原告であることを理由に、私達に対する情報開示や環境コミュニケーションが困難である旨を再三にわたって述べていますが、その主張は失当です。

私達は、2015年8月から同社に対して何度も住民説明会の早期開催を求め、県や仙台市・多賀城市などの行政にも何度も働きかけ、2017年2月に県主導の公聴会の開催を求める請願の採択を得ました。2017年5月には同社および県知事や関係自治体の長に、2ヶ月間で集めた2万2千筆以上の署名を提出するなど、被告企業・行政・議会に対して、考え得る手段はすべて講じてまいりました。2017年1年間だけでも、地元の河北新報は、地域住民と向き合おうとしない企業姿勢などを問題視し、仙台パワーステーションの問題を計62回、平均で月に5回以上の頻度で紙面で報じております。

にもかかわらず被告は、地域住民の声やメディアの報道などを無視して、あたかもそれらをあざ笑うかのように、予定どおり6月12日に試運転を行い、10月1日から営業運転を開始したのです。行政・議会の限界・機能不全、被告仙台パワーステーション株式会社の、地域住民を顧みることのない傍若無人な企業姿勢こそが、私達に操業差止裁判という最後の手段を選ばせたのです。

仙台パワーステーションが立地する仙台港付近は、9年半前の3月11日、津波によって大きな被害を受けました。原告の中には息子さん2人、おじさんお婆さん3人あわせて5人もの親族を亡くされた方をはじめ、命からがら逃げ延び、震災直後の労苦を歯を食いしばって耐え乗りこえ、生活再建と復興のために必死でがんばってきた方々が少なくありません。こういう方たちが2017年6月12日の試運転開始以来、連日連夜、仙台パワーステーションからの煙、PM2.5やSO2、NO2、オキシダント、石炭くさい臭いに曝され続けているのです。ペランダの黒いススの汚れにうんざりしながら、毎日毎日排煙を見続けなければならない苦

痛・不条理に曝されています。とりわけこのコロナ禍のもとで、私たちはステイ・ホームを余儀なくされています。一方、仙台パワーステーションの操業には自粛はありません。多くの原告とその家族は、この半年間ステイ・ホームのもとで、これまでになく長時間仙台パワーステーションの煙と悪臭に曝され続けています。ステイ・ホーム with コロナは、原告にとっては、ステイ・ホーム with 仙台パワーステーションの排煙と臭いに否応なく直面させられる日々にはなりません。この苦しみは、いったい、いつまで続くのでしょうか。

いのちと健康を守るために

しかも私達が専門委員の内山巖雄先生のご指摘を受けとめ精査し立証してきましたように、仙台パワーステーションによる PM2.5 や NO2 の増加によって、多賀城市の場合には人口 10 万人あたり年間 2.16 人の早期死亡が科学的に推算されています。人口 10 万人あたり年間 2.16 人という値は小さいでしょうか。内山専門委員は、本訴訟で、発ガン物質の環境基準を検討する際に、人口 10 万人あたり 1 人の割合で発ガン患者が増加するというリスクレベルを目安にしたと述べておられます。人口 10 万人あたり 1 人の発ガンリスクよりはるかに深刻な値が、年間 2.16 人の早期死亡です。これは、宮城県内の人口 10 万人あたりの交通事故死者数 2.20 人（2017 年）に匹敵する大きさです。多賀城市在住の原告は、仙台パワーステーションの運転が続く限り、毎年毎年交通事故死者なみの早期死亡のリスクに曝され、健康不安に怯えながら生活することを余儀なくされています。

仙台パワーステーションを差し止めることは、被災地を中心とするこの地域の原告のいのちと健康を守ることを意味します。

「石炭中毒」から脱却するために

仙台パワーステーションの出力 11.2 万 kW は一見小さいようですが、年間 67.2 万トン、19.3 万世帯分もの CO2 を排出しています。仙台市の世帯数は 50.3 万世帯。1 世帯当たりの CO2 が、38.3% ずつ増える計算になります。宮城県全体の年間の温室効果ガス排出量 2138.8 万トン（2016 年度）の 3% にあたります。しかも問題なことは、日本独自の「間接排出量勘定」のルールによって、首都圏で売電されるならば、宮城県で CO2 を発生させても、計算上は消費地で発生したとみなされ、宮城県の CO2 にはカウントされません。砥山社長は、2 月 17 日の本人尋問において、企業秘密であるとして、売電先を回答することを全面的に拒否しましたが、どの県に電力が販売されているかが明らかでないと、どの県の CO2 の増分としてカウントすべきかが不明になります。仮に 1 割が宮城県内で販売されているならば、宮城県内の CO2 がその 1 割相当分増えているものとして扱わねばなりません。仙台パワーステーション株式会社のこのような姿勢は、こうして厳密なファクトベースにもとづくべき我が国の気候変動政策を根本から揺るがせているのです。宮城県民はいったい何を信頼して、何を目標に、節電やエコドライブ・ゴミ減量化などに取り組めばいいのでしょうか。気候変動に向けた県民の真摯な努力を愚弄するかのような、仙台パワーステーション株式会社の企業姿勢です。

昨年 10 月台風 19 号の記録的豪雨によって、宮城県内で 19 名もの犠牲者が出たことは記憶に新しいことです。本年 7 月 28・29 日隣県山形県では最上川が 53 年ぶりに数ヶ所で氾濫を起こしました。また昨年は宮城県内でも熱中症救急搬送件数が急増するなど、気候危機・気候非常

事態は宮城県内および隣県でも既に顕在化しています。

昨年12月マドリードで開催されたCOP25、気候変動対策を考える国連の第25回目の会議で、グテーレス国連事務総長は、日本を名指しで「石炭中毒」と批判しました。「石炭中毒」は私達の足元、宮城県の問題でもあります。パリ協定を守るために、日本は、石炭火力からの早期脱却が求められています。7月3日、梶山弘志経済産業大臣は「非効率な石炭火力発電所」は2030年までに段階的に廃止する方向で検討を開始するという新しい方針を発表しました。亜臨界圧型という古い技術を用いた「非効率な」仙台パワーステーションの操業を差し止めることは、気候危機・気候非常事態からこの地域を守るとともに、「石炭中毒」から日本が脱却する第一歩となります。

干潟を水銀汚染から守るために

9年前の大震災の際、津波によって一旦は流され消失ながらも、たちまち自然の力で奇跡的によみがえった蒲生干潟は、地域の人達を大いに勇気づけ、励ましてくれました。そもそも蒲生干潟は、「蒲生を守る会」などの市民運動が50年にわたって埋め立ての危機などから守り続けてきたものです。蒲生干潟は私達の心のふるさとであり、被災地のオアシスです。海辺における杜の都のシンボルです。しかし仙台パワーステーションの操業開始とともに、蒲生干潟は新たな危機、とりわけ水銀汚染の危機に曝され続けています。仙台パワーステーションの煙の中には微量の水銀が含まれています。生態系の食物(しょくもつ)連鎖によって、プランクトンなどの微生物に取り込まれた有機水銀は、仙台湾の特産のイシガレイなどを汚染し、ひいてはカツオ・マグロなどの大型魚類を汚染することや、ガン・カモなどの渡り鳥、水鳥を汚染することが危惧されます。仙台パワーステーションを差し止めることは、干潟と干潟の動植物を、近海の魚類を守ることを意味します。

画期的な判決を期待する

国・県・市が出来ることには限界がある、県議会・市議会にも限界があるということを、この石炭火力問題に関して、私達はこの4年間、再三再四にわたって言われ続けてまいりました。

中島裁判長、ここで仮に裁判所にも大きな限界があるんです、と言われたら、私達は途方にぐれてしまいます。法治国家・民主主義国家のこの日本で、自らのいのちと健康を守るために、気候変動の被害から地域の未来を守るために、蒲生干潟を守るために、干潟に飛来する渡り鳥や水鳥を守るために、私達は、一体何を、誰を、頼りにすればいいのでしょうか。司法は、裁判所は、被災地に生きる私達の最後の拠り所です。

裁判長、日本の司法の歴史に残る大英断と画期的な判決を期待いたします。

(見出しは、配布用に付け加えた)